

CO₂と経営

9

環境と財務の「見える化」へ

キリンビールは、競合他社と共同での環境への取り組みに着手している。「他社との競争も大事だが、目的はCO₂を削減することだから」とCSR・品質推進部の藤原啓一郎主査は話す。

同社は昨年、資材の共同調達を開始した。同社が先行して使用している缶蓋口径の小さな「204径缶」をサントリーも採用し、規格統一のための技術をサポートしている。

また、サントリーと日清食品、ハウス食品、永谷園の4社が実施する段ボール原紙共同調達スキームに参加したことで、

とで、4社合計で年間約5万枚の未回収パレット

競合他社とも連携図る

の回収促進を徹底する。これにより、新たなパレット製造で発生するCO₂ 16000tを削減できるといふ。

また同社は、びんやアルミ缶の軽量化、薄肉化を図り、容器の製造で費

共同配送のほか、大型車への切り替えやトラック1台当たりの積載量の増加、トレーラーを使用することでトラック台数の削減などに取り組んでいる。

キリングループの財務状況とCO₂排出量の推移(図1)に着目すると、08年度の売上高は約2・3兆円で07年度から大幅に伸びている。08年の有価証券報告書によると、同社は協和発酵キリンや豪州のナショナルフーズ社をグループに加えるなど、国内外で積極的な事業展開を図っているようだ。

一方、売上高が大幅に伸びたにもかかわらず、08年のCO₂排出量は07年よりも抑えられていることが分かる。

工場では、国内の11工場のうち9工場で重油から都市ガスへ燃料を転換している。また、工場の排水嫌気処理で発生するメタンガスを燃料に利用するコージェネレーション設備はビール製造で必要な電力の3分の1をまかなっており、現在7工場で導入している。

省エネのほか、太陽光や風力など、新エネルギー利用の検討に向けた取り組みにも着手しているという。新エネルギー産業技術総合開発機構、新エネルギー財団の太陽光発電新技術等フィールドテスト事業に協力し、05年から全国7カ所に太陽光発電設備を設置してい

る。年間発電量は約13万キロワット時で、年間約54トンのCO₂を削減できるとしている。

また、横浜市の「横浜市風力発電事業」にも協

賛しており、昨年度は76・4万キロワット時の電力を地域に供給している。(環境新聞社・江頭

佐和子、メディアネットグローバル・西野嘉之)

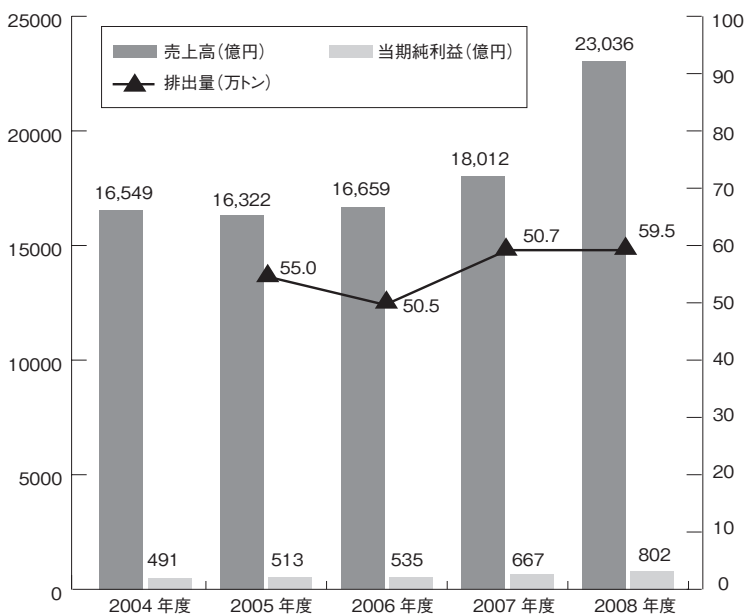


図1 キリンホールディングスの財務状況とグループ全体のCO₂排出量の推移 (キリングループCSRレポート2009、ユーレット (http://ullet.com/2503.html) を基に作成)

また、図2のユーレット (http://www.ullet.com/2503.html) のキリンホールディングスの損益計算書の円グラフでは、黒色の部分(当期純利益)が円の左側に位置しており、

黒色(当期純利益)が左にあり、その割合がほぼ一定。
⇒ 毎年着実に利益を出している。



図2 キリンホールディングスの損益計算書(P/L)の円グラフの特徴 [ユーレット (http://www.ullet.com/2503.html) を基に作成]